



(別表第二)

陸軍兵力配備概要

昭和二〇六年現在

備考	氣球	隊部防空地上地										隊部航空				區分
		下隷軍面方七十第		下隷軍給二第					下隷軍給一第			防空隊部		對空隊部		
		高射砲約一箇中隊 照空約三箇中隊	高射砲約八箇中隊 照空約四箇中隊	高射砲約四箇中隊 照空約四箇中隊	高射砲約六箇中隊 照空約四箇中隊	高射砲約一箇中隊 照空約三箇中隊	高射砲約二箇中隊 照空約一箇中隊	高射砲約一箇中隊 照空約一箇中隊	高射砲約一箇中隊 照空約一箇中隊	高射砲約四箇中隊 照空約三箇中隊	高射砲約一箇中隊 照空約一箇中隊	飛行第三戰隊	第一飛行師團	第三獨立飛行隊	下志津教導飛行師團	
戰況ノ推移ニ依リ變更スルコトアルベシ	第一戰隊 五挺氣球隊	高射砲四門	高射砲四門 照空燈一四基	高射砲二門 照空燈二一基	高射砲三門 照空燈二五基	高射砲六門 照空燈六六基	高射砲二門 照空燈六基	高射砲一門 照空燈一四基	高射砲二門 照空燈八基	約二十機	夜戰六機	夜戰六機	約三十機	約十二機		
	伏新 木瀧	霞水	釜山	博多	關門	倉幡	敦賀	伏木	新潟	對馬海峡	富山	新潟	對馬海峡	新潟		

主要兵力 配備方面 摘要

大海指第五二五號

寫

昭和二十年七月五日

軍令部總長 豐田 副武

小澤海軍總司令長官ニ指示

- 一、本土作戰ヲ決號作戰ト呼稱ス
- 二、決號作戰ニ於テ決戰方面ハ大本營之ヲ決定ス
- 三、海軍總司令長官ハ敵情ニ應ジ機宜作戰之方面  
ヲ豫令(敬言)戒下令ヲ例トス以テ作戰指導ヲ特戰

寫

昭和二十年七月五日

軍令部總長 豊田副武

小澤海軍總司令長官ニ指示

- 一、本土作戰ヲ決號作戰ト呼稱ス
- 二、決號作戰ニ於テ決戰方面ハ大本營之ヲ決定ス
- 三、海軍總司令長官ハ敵情ニ應ジ機宜作戰ノ方面ヲ豫令(敬言)戒下令ヲ例トス以テ作戰指導ヲ特戰



力ハ何物ヲ集ルニ遺恨ナカランヤハシ

12  
3  
4

大海指第五二六號

寫

昭和二十年七月十三日

軍令部總長 豊田副武

小澤海軍總司令長官ニ指示

決號作戰ニ於ケル航空作戰ハ別冊「決號

航空作戰ニ關スル陸海軍中央協定ニ準

據シ之ヲ實施スベシ

大海指第五二六號別冊  
決號航空作戰ニ關スル陸海軍中央協定

昭和二十年七月十三日

大本營海軍部

大本營陸軍部

註  
本協定ハ主トシテ西日本方面ニ對スル敵ノ來攻ニ  
伴フ作戰ニ關スルモノトス

決號航空作戰ニ關スル陸海軍中央協定

第一、方針

- 一、陸海軍航空全戦力ヲ統合發揮シ本土來攻ノ初動成ル  
ハク至短期間ニ努メテ多クノ敵ヲ海上ニ擊碎シ陸上作  
戦ト相俟テ敵上陸軍ヲ擊滅ス
- 二、本土防空及對潜作戰ヲ強化ス

第二、作戰指導ノ大綱